

2月8日に東京としては多めの雪が降った。今年の冬は本当に雨が少なく、奥多摩湖の湧水が話題になるほどだったが、ようやく恵みの雪が降った。雪の積もった山を見たくなり、東京西部へ。白銀の雪山は美しく、普通の登山より気持ちが上がる。

こんな日でも、いきもの探し。雪積もる溪流で岩をひっくり返しながらか歩く。じつは、昨年から“とある珍しい生物”を探し続けているのだが全く見つからない。今回はそいつを探す過程で見つけた別の生物の紹介だ。溪流で石めくりをしていて、ふと溜まった落ち葉をどかしてみた時、2cmほどの薄茶色の細長い虫が現れた。生きて化石・ガロアムシだ！！狙いの生物では無かったがこれは超嬉しい！

この感動、伝わらないでしょ？この虫はかなり知名度が低い。相当な虫好きじゃないと存在すら知らない。かく言うぼくも、数年前に卒業生のタツキが高尾山でこの虫を探していると聞いて、「ほお〜ん、そんな虫もいるのかぁ」とそこで初めて知ったぐらいだ。試しに息子に見せてみたら、「コオロギみたい」と言われた。個人的にはコオロギとゴキブリの中間みたいな見た目だと思っているが、そのどちらの仲間でもない。「じゃあ何の仲間？」と聞かれると困ってしまう。ガロアムシはガロアムシ目（非翅目）で、独立したグループだ。ところで、この虫、分布がとてもヘンだ。北米、中国、シベリア、韓国、日本の山岳地帯のみにしかいない。飛び飛びの分布は、氷河期の終わりに温暖になった時、山に取り残された結果だと考えられている（氷期遺存種）。暑さに弱く、山の岩場の奥深くに潜んでいて、なかなかお目にかかれない。ice crawlers（氷を這う虫）とも呼ばれる。低温を好むので、飼育は冷蔵庫の中だとか。寒い季節は地表付近にも来るため、冬の山で岩をどかしまくれば見つけれられる。

じつはガロアムシを見つけたのは二度目だ。しかも今回はこの1週間前。別の場所で、同じように溪流の大きな石をひっくり返していた時に発見した。生物と出くわした時、写真が好きな者なら誰しもが経験する「迷い」が生じる。それは、「捕獲が先か…撮影が先か…（採るかor撮るか）」ということ。一瞬逡巡したのちにぼくの右手はカメラを掴んだ。その瞬間、ガロアムシは小さな穴の中へ一瞬で消えていった。真冬の寒さの中、こんなに早く動けるとは！珍しい虫だと知っていたので、超悔しい…！やっちまったあああ！と自暴自棄に近くの岩をひっくり返しまくっても、結局この日はもう出会えなかった。まさか1週間後、しかも雪の中で再会できるとは思わなかった。前回の失敗を活かし、ガロアムシが視界に入った瞬間、考えるより先に手が伸びて捕獲！何とか生態写真の撮影に成功した。しかもice crawlersの異名の通り、雪と一緒に写せて良かった。雪の日でも外に出てみると良いことがあるもんだなあ。

ガロアムシのおかげで、普段目にする事のない“地下の世界”を意識し始めた。この足の下には、きっと人間がまだ見ぬ生物たちのワンダーランドが広がっているのだろう。真の闇に適應したその世界は一体どんなものだろう。そんな妄想にワクワクしながら、手が凍りつきそうなほどかじかんでいることも忘れて、上機嫌で下山した。

参考：・小松貴, 2018, 絶滅危惧の地味な虫たち—失われる自然を求めて, 筑摩書房 ・石井実(編), 1996, 日本動物大百科(第8巻)昆虫I, 平凡社

雪積もる溪流で探す珍虫 生きて化石・ガロアムシ



ガロアムシの形態 2月東京
コオロギ? シロアリ? ゴキブリ? 何とも
言えない不思議な見た目だ。地中生活に
特化して翅をなくし、目もほとんどない。



生息環境 2月東京 こんな日に登山者
はほぼいなかった。ましてや岩をひく
り返している人などいない。



雪とガロアムシ 2月東京
雪が積もった山間部の溪流で落ち葉の下から見
つけた。好冷性で暑さに弱く、冬以外はがれきの下
の地中深くに潜ってしまう、観察が難しい虫だ。
ice crawlers（氷を這う虫）とも呼ばれる。世界
的に見て極めて局所的に分布する珍しい虫で、日
本は貴重な生息地として注目されているが、研究
者は少ない。名前は発見者のガロアにちなむ。有
名な数学者のガロアとは関係ない。

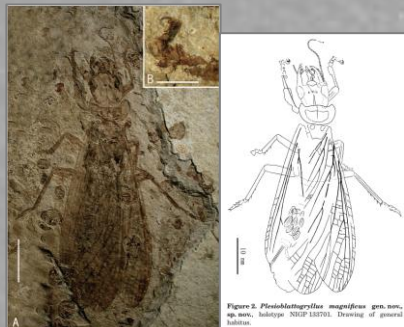


Figure 2. *Pleoblattegrillus magniflorus* gen. nov.,
sp. nov., holotype NIGP 185701. Drawing of general
habitus.

ガロアムシと近縁のプレシオブラットグリルス
の化石（ジュラ紀中期（1億7,000万年頃）・中国産）
ガロアムシの祖先は翅があった。でも翅以外は大昔
からほぼ姿が変わっていないため、ガロアムシは原
始的な特徴を維持した「生きて化石」と言われてい
る。

引用：DI-YING HUANG, ANDRÉ NEL, JULIAN F. PETRULEVICIUS,
2008, New evolutionary evidence of Grylloblattida from the Middle
Jurassic of Inner Mongolia, north-east China (Insecta, Polyneoptera),
Zoological Journal of the Linnean Society, 152, 17–24